


# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

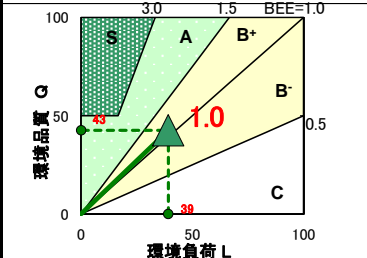
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	叶土地建物有限公司 様SHM	階数	地下0階地上4階		
建設地	仮設地:東海太田川駅西土地区画整理事業14街区仮1番、仮2番、仮3番、仮4番、仮5番、仮6-3番 仮設地:東海太田川駅西土地区画整理事業14街区仮6-1番 該当地:愛知県東海市大田町後浜新田204番、205番、206番、207番1、207番2、208番、217番2、217番3、218番1、218番3、219番1、219番3、220番1、221番1、222番1、223番1、223番2、271番	構造	S造		
用途地域	近隣商業地域・防火指定(法22条指定)	平均居住人員	110 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	物販店集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工時期	2025年5月 予定	評価の実施日	2024年4月22日		
敷地面積	2,975 m <sup>2</sup>	作成者	松田 裕史		
建築面積	837 m <sup>2</sup>	確認日	2024年5月7日		
延床面積	2,998 m <sup>2</sup>	確認者	大村 恭博		

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★



### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

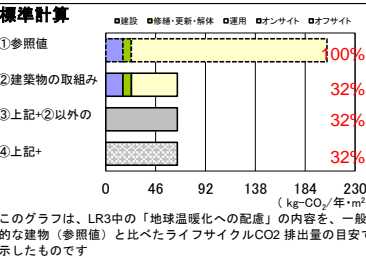
標準計算

①参照値 100%

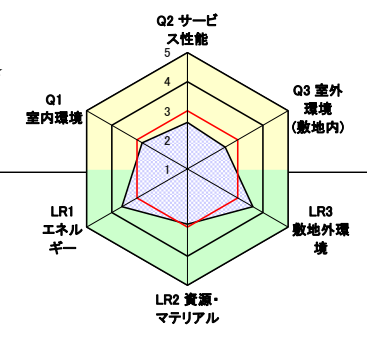
②建築物の取組み 32%

③上記+②以外の 32%

④上記+ 32%



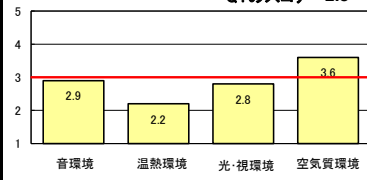
### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



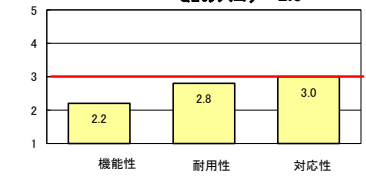
### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 2.7**

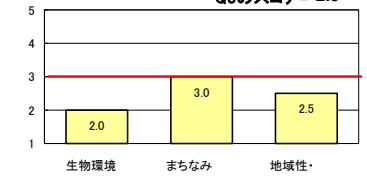
Q1 室内環境 **Q1のスコア = 2.8**



Q2 サービス性能 **Q2のスコア = 2.6**

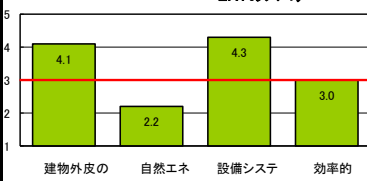


Q3 室外環境(敷地内) **Q3のスコア = 2.5**

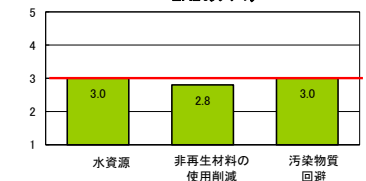


LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.4**

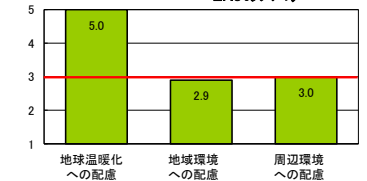
LR1 エネルギー **LR1のスコア = 3.6**







LR2 資源・マテリアル **LR2のスコア = 2.9**



LR3 敷地外環境 **LR3のスコア = 3.6**



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">5.0</p> 	<p>③敷地内の緑化</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">2.0</p>  <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">29.8 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">2.8</p> 	<p>④地域材の活用</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">1.0</p>  <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性

LR-2 2 非化石性資源の活用割合

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{建築面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

※各重点項目の評価活動に応援しています

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 叶土地建物有限公司 様SHM

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
									建物全体・共用部分	住居・宿泊部分
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										
<b>Q2 サービス性能</b>										
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

<b>3 対応性・更新性</b>			0.2	3.0	0.29	3.1	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			-	3.0	0.06	3.2	3.2	-	0.50
1 階高のゆとり			階高(住居・宿泊部分) 2.9m以上						
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40	-	4.0	-	0.60
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.06	-	2.0	-	0.40
3.3 設備の更新性			0.6	3.0	0.87	-	3.0	-	0.50
1 空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	-
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	-
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	-	0.30	-	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	3.0	0.40	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	2.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	-	-	3.4
<b>LR1 エネルギー</b>			-	-	0.40	-	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当を超える性能を確保している。						
2 自然エネルギー利用			3.0	4.1	0.33	-	-	-	4.1
3 設備システムの高効率化			3.0	4.3	0.33	-	-	-	4.3
4 効率的運用			0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			0.2	3.0	0.21	-	-	-	-
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
集合住宅の評価			0.7	3.0	0.79	-	-	-	-
4.1 モニタリング			-	3.0	0.50	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			-	3.0	0.50	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	-	0.30	-	-	-	2.9
<b>1 水資源保護</b>			0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	3.0	0.40	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.93	-	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.07	-	-	-	-
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			0.6	2.8	0.63	-	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	3.0	0.24	-	-	-	-
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	-
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	-
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	-	0.30	-	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮			①	5.0	0.33	-	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			0.3	2.9	0.33	-	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.7	0.25	-	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			独自	3.0	0.25	-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制			独自	3.0	0.25	-	-	-	-
3 交通負荷抑制			独自	4.0	0.25	-	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	-
適切な台数の自転車置場及び駐車場 駐車場の導入路(出入り口など)の位置や形状・数への配慮			-	-	-	-	-	-	-
<b>3 周辺環境への配慮</b>			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 騒音			独自	3.0	1.00	-	-	-	-
2 振動			独自	-	-	-	-	-	-
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	-
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	-
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	-

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>5.0</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>2.8</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09
			外構緑化:29.8%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			<b>1.0</b>
			(評価ポイント)
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 叶土地建物有限会社 様SHM

計画上の配慮事項	
総合	利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。
Q1 室内環境	JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。
Q2 サービス性能	階高(住居・宿泊部分) 2.9m以上
Q3 室外環境(敷地内)	植栽により、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当を超える性能を確保している。 BEI = 0.47
LR2 資源・マテリアル	主要水栓に節水コマなどが取り付けられている。 ODP=0の冷媒を使用している。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率33%。
その他	特になし。